

令和7年度 第2回磐田の未来を語る会 懇談記録

日 時：令和7年11月27日（木）
19時～20時30分

場 所：ワークピア磐田 視聴覚室

参加人数：4名

参加者の主な意見	市長コメント
<p>○中学硬式野球チームの監督をしている。中学部活の地域移行が進む中でクラブも選択肢に入ってくる。市内には軟式野球場は多くあるが、硬式野球ができる球場を整えてほしい。文化会館の跡地利用として、ドーム型の室内練習場はどうか。</p> <p>○新設のスポーツ文化観光部に求めているものは何か。磐田への恩返しをしたいという思いがある。何か協力できることはあるか。</p>	<p>○軟式、硬式ができる場所は細かく決められている。現実問題は厳しい状況だが、まずは担当課のスポーツのまち推進課や団体の声を取りまとめているスポーツ協会と顔の見える関係を作ってもらふことから。</p> <p>○文化会館跡地について、公共施設は減らす方向で、こども、防災、スポーツ等をテーマに、建物は民間企業が持ち、そこに行政も入っていくような民間連動で考えている。</p> <p>○スポーツ文化観光部は、文化財課を市長部局に移す等、観光を全てのセクションで関わられるようにする狙い。スポーツ合宿や大会誘致を通じ、観光の発想で市内を巡ってもらふ魅力づくり。</p>
<p>○学習塾を長くやっているが、子どもが変わってしまった印象。集中力や書いて整理する能力が欠けていることが多い。</p> <p>○お年寄りがおせっかいでもいいので、近所とコミュニケーションをとって関わっていくことが必要と感じる。</p>	<p>○部活動の地域移行はチャンスと考えている。中学生に教えたい人は必ずいる。高齢の方が人生の中で得意としてきたことを、週末1時間だけでも多様な形で関わってもらいたい。定年後に誰かのために生きている人はいい亡くなり方をする。</p>
<p>○バスなど公共交通の本数をもっと多いと助かる。</p>	<p>○公共交通は多額の税金の投入になるため、悩みながらやっている。中高生や高齢者、観光客など足がない人は不便を感じている。現在のデマンド型乗合タクシーも自己負担に対し、経費は何倍もかかっている。住民がどこまで負担を許容してくれるかという話にもなる。</p>
<p>○単発のアルバイトをしているが、どこも人手不足。その中で面白い地元企業もあった。学校と地元企業が連携して不登校の子の受け入れがあってもいい。学校になじめない子どもたちは社会で受け入れてもらう。寺子屋教育が本来の日本の教育のあり方だと思う。</p>	<p>○学校現場とのすり合わせには苦労はある。これからの時代は自分の足で生きていける人が評価される。</p>